



利用しやすく、一人ひとりの安心・安全を守る ネットワークを地域の人たちと作り出す

兵庫県・加東市

加東市健康福祉部社会福祉課

石田 浩一（社会福祉士）

<自治体の基礎情報>

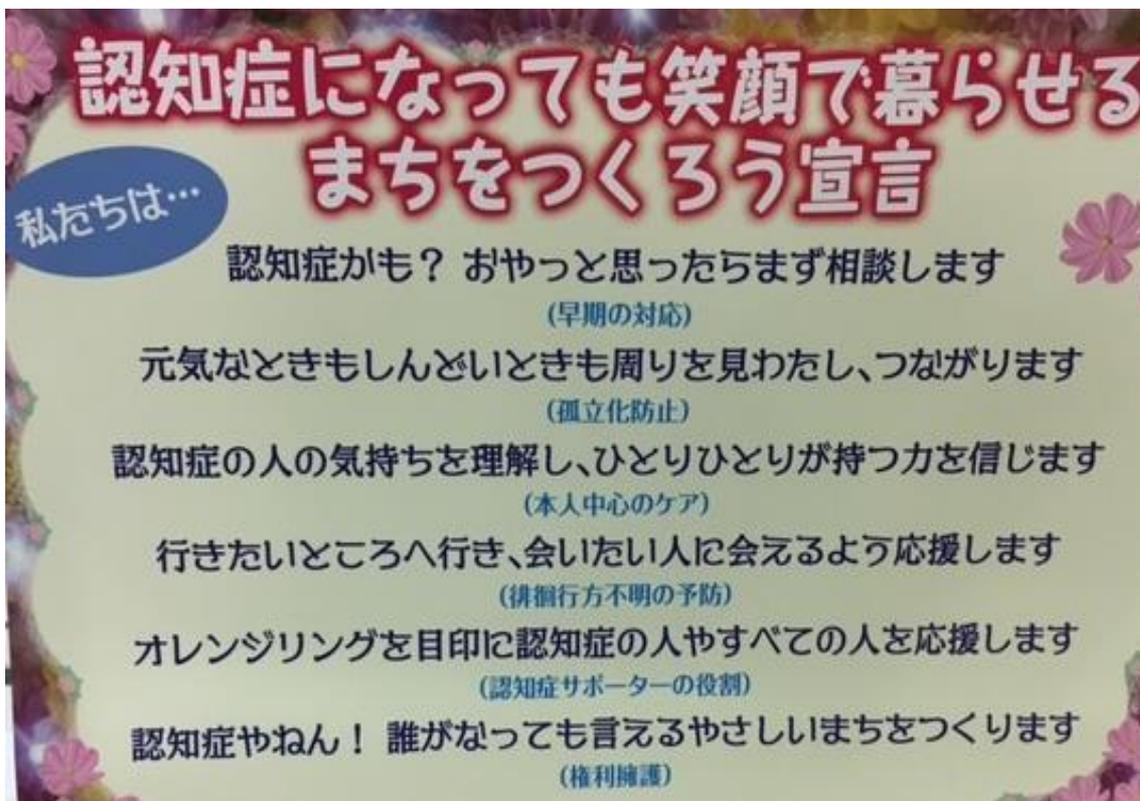
| | | | |
|---------|---------|--------|-----------------------|
| 人口 | 40,302人 | 面積 | 157.55km ² |
| 65歳以上人口 | 10,352人 | 高齢化率 | 25.7% |
| 要介護認定者数 | | 要介護認定率 | |
| 日常生活圏域数 | 3圏域 | 包括数 | 直営：1 委託：0 |

認知症地域支援推進員数： 4名（うち行政：0名、直営：4名、委託：0名、他：0名）

地域の特徴：兵庫県の中央部・播磨地方の東側に位置する内陸市であり、旧加東郡の3町がH18年に合併して誕生。瀬戸内海性気候のため、年間通して温暖。中国自動車道（市内に2つのICがある）と都市間交通の幹線となっている国道175号が交差しており、道路交通の拠点となっています。

認知症地域支援推進員の役割

平成24年度に加東市の認知症施策のポップを作成。これを基に、笑顔で暮らせるまちづくりに向けた事業を推進、支援している。



第7期介護保険事業計画 の重点課題

1. 相談支援体制の充実
(ケアパス、相談センターの明確化など)
2. 早期発見・早期支援の取り組み
(町ぐるみ検診、初期集中チームの活用など)
3. 支援体制の強化
(サポーター養成講座、認知症カフェ、SOSネットワークなど)
4. 若年性認知症の人とその家族への支援
(早期支援、認知症カフェなど)

支援や方針に迷ったり、困ったときはこのポップを振り返る。
「認知症になっても笑顔で暮らせるまち」を目指すことを忘れない。

【加東市】認知症施策全体図

目的

地域住民が認知症を正しく理解する⇒見守り支える人が増える

認知症の人と家族を支援する「資源」がつながり、連携した地域支援ができる

つながりを生かしたサービスや活動を市民ができる

取組

キャラバン・メイトと認知症サポーターの活動

CATV・広報・イベントでの啓発

講演会・パネルの展示

認知症ケア従事者のスキルアップ

医療と介護、地域との連携

早期からの相談支援体制づくり

認知症予防と生きがいづくり

安心・安全への支援

内容

キャラバンメイトの活動支援
認知症サポーターの活動支援

秋のフェスティバル

広報、ケーブルテレビおたつしやだより

出前講座・認知症サポーター養成講座

地域ケア市民フォーラム

回想法の実践

タクティール®ケアの実践と普及

4DASの実践と普及

認知症ケアパスの構築

初期集中支援チームの活動

多職種 市民との協働研修やセミナー

つながりノートの活用

物忘れ相談プログラムの活用

軽度認知障害の早期介入相談支援

若年性認知症の相談支援

相談業務従事者のスキルアップ事業

茶話会 家族介護者のつどいの開催支援

認知症相談センターの活動支援

ふまねこと教室の開催

物忘れ予防カフェ(認知症カフェ)の開催支援

ひょう外見見本の徘徊 SOS ネットワーク

福祉二丁スキッチシステムの充実

認知症情報提供票の充実

わんわんパトロール啓発実施

安心救急情報キットの活用

サポートマークの活用

行きたいところに行き、 会いたい人に会えるように

(行きたいところに行けるよう見守り環境整備)

- 加東市ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク

(認知症になっても行き続けられるための支援)

- もの忘れ予防カフェ（認知症カフェ）の
開催支援

加東市ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク 取組の目的・背景・経緯

背景・経緯

認知症の「見当識障害」により、行方不明になってしまう相談が寄せられており、警察から情報をいただいたところ市内で年間約30名の高齢者の捜索願が出ていることがわかりました。

今後、そのようなケースが増加すると考え、認知症の人とその家族を支援するため、日頃の地域のつながりを活かし、普段の生活のなかで見守り、声かけすることで、安心してひとり外出ができ、徘徊行方不明を予防できるまちづくりを目指し、「ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク事業」に取り組むこととしました。準備をはじめ、平成24年からを開始し、現在に至っています。

ネットワークの目的

加東市のネットワークには2つの目的があります。

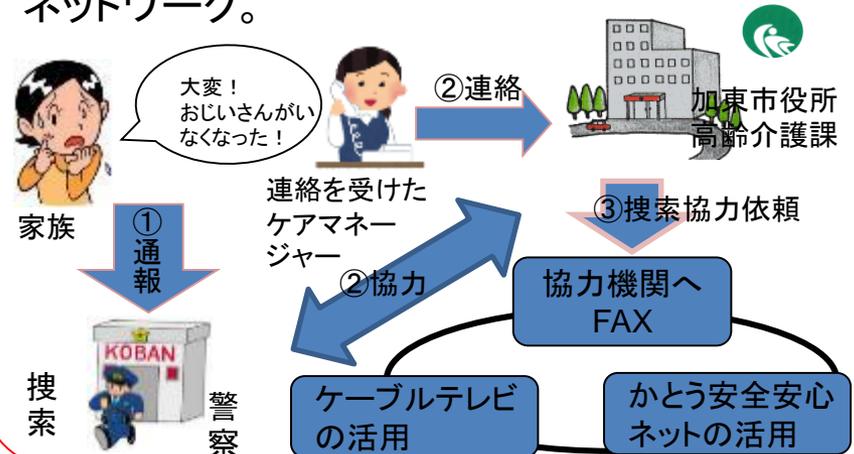
ひとり外出見守りネットワーク

高齢者が安心して、ひとりで外出ができる環境（地域の人たちによる見守り等）をつくり、行方不明を防止するネットワーク。



徘徊SOSネットワーク

もし行方不明になった時、早期発見を図るネットワーク。



取組みの概要(方法・対象)

1. 対象

- ・認知症の（かもしれない）人で、場所や外出の目的を忘れてしまう恐れがある。
 - ・地域で道に迷っていたり、夜間に頻回に外出している。
 - ・道に迷って、警察に保護された。等徘徊による行方不明のおそれのある方
- ※普段の生活のなかで、気になる方がいれば、同ネットワークをご紹介ください。

2. 登録方法

認知症（かもしれない）の人のご家族等が、加東市役所 高齢介護課窓口（加東市役所1階）又は、担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）にご相談いただきます。

アセスメントに基づき、**加東市ひとり外出見守りネットワーク個人票**に記載

【事前登録内容】

氏名（旧姓）、生年月日、住所、緊急連絡先、身体的特徴（身長、体重、足のサイズ、ほくろの位置等）、最近の写真（顔と全身）、外出コースなど

【裏面 見守り支援連絡票】

家族・親族、立ち寄り先協力依頼、店舗・近隣住民、介護サービス事業者 など



関係者で話し合いを実施

- 本人の散歩ルート確認
- 見守り協力依頼
- 異変の確認

本人・家族、ケアマネジャー、地域包括支援センター、介護サービス事業者、民生児童委員、地域の見守り支援者、社協 などが参加

これが
大切

情報が整ってから登録

市高齢介護課

普段の見守りと万が一の行方不明に備えます。

市防災課

民生児童委員

市社会福祉協議会

加東警察、駐在所

担当介護支援専門員

情報共有

取組の経過・工夫点

● ポップに！ 多様な啓発活動

「せっかく、良いことしてるのにみんなが知らなかったら、意味がない」年間を通じた啓発活動。

| 年間の啓発活動 | |
|---------|-----------|
| 4月 | 消防団に講座 |
| 6月 | 広報紙 |
| 9月 | ケーブルテレビ |
| 10月 | ネットワーク会議 |
| 11月 | お祭り |
| 12月 | 声かけウォーキング |
| 3月 | ワンワンパトロール |



消防団に
協力要請



お祭りで啓発
(のぼりとチラシ)



わんわんパトロール



声かけウォーキング



楽しく
伝える

取組の経過・工夫点

● わかりやすく！一人ひとりの地域の見守り・早期発見の体制作り

登録を希望されるのは、困っている人。見守り協力者はボランティア。
「面倒くさい」「よくわからない」とならないようにする。



「家族が登録しやすくなるキット」 (加東市ひとり外出見守りネットワークキット)

ネットワークについてのわかりやすいマニュアルや事前登録用の個人票、蛍光ステッカー、キーホルダー、ペンライト、介護先輩者の声集等のグッズを入れた透明ポーチを、一人ひとりに手渡す。

| 取り扱い注意 | |
|-------------------------|----------|
| 加東市ひとり外出見守りネットワーク個人票 | |
| 氏名 | 加東市 |
| 性別 | 男 |
| 生年月日 | 19 年 月 日 |
| 職業 | |
| 電話番号 | |
| 緊急連絡先 | |
| 住所 | |
| 郵便番号 | |
| 要介護認定 | |
| 利用サービス事業所名 | |
| 【ひとり外出の状況】 | |
| 【ネットワークの目的と協力機能】 | |
| 【協力関係構築・ケアカンファレンス参加履歴等】 | |
| 【ネットワーク体制の確認】 | |



「定期的な更新と情報共有」

個人票と地図をみながら、関係者（本人・家族、ケアマネジャー、地域包括支援センター、介護サービス事業者、民生児童委員、地域の見守り支援者、社協 など）で話し合い。

一人ひとりの地域の見守り体制を検討します。

この地図では、黄色とピンクが本人の散歩ルート、青色が見守り協力者になります。年1回更新をケアマネジャーや家族にお願いしています。

取組の経過・工夫点

● わかりやすく！一人ひとりの地域の見守り・早期発見の体制作り

登録を希望されるのは、困っている人。見守り協力者はボランティア。
「面倒くさい」「よくわからない」とならないようにする。



「家族が登録しやすくなるキット」 (加東市ひとり外出見守りネットワークキット)

ネットワークについてのわかりやすいマニュアルや事前登録用の個人票、蛍光ステッカー、キーホルダー、ペンライト、介護先輩者の声集等のグッズを入れた透明ポーチを、一人ひとりに手渡す。

| 取り扱い注意 | |
|-------------------------|----------|
| 加東市ひとり外出見守りネットワーク個人票 | |
| 氏名 | 加東市 |
| 性別 | 男 |
| 生年月日 | 19 年 月 日 |
| 職業 | 専業主婦 |
| 住所 | 加東市 |
| 電話番号 | |
| 緊急連絡先 | |
| 利用サービス事業所名 | |
| 【ひとり外出の状況】 | |
| 【ネットワークの目的と協力機関】 | |
| 【協力関係機関・ケアカンファレンス参加機関等】 | |
| 【ネットワーク体制の確認】 | |



「定期的な更新と情報共有」

個人票と地図をみながら、関係者（本人・家族、ケアマネジャー、地域包括支援センター、介護サービス事業者、民生児童委員、地域の見守り支援者、社協 など）で話し合い。

一人ひとりの地域の見守り体制を検討します。

この地図では、黄色とピンクが本人の散歩ルート、青色が見守り協力者になります。年1回更新をケアマネジャーや家族にお願いしています。

みんなでマニュアル改訂



警察、ケアマネジャー、消防、社協、民生児童委員、介護サービス事業所、キャラバン・メイト等で話し合い。「困っている時にわかりやすくしないと使えない。」「早く大勢で探せば、早く見つかることを周知してほしい」等の意見を頂く。

登録シートを丁寧に作る

家族さんと見守り環境をつくる時に、 だいたい伝えること

「まずは、本人にどこに出掛けているか聞いてください。」
 「最近、本人さんのことを話したり、相談した人はいますか？」
 「一番、頼みやすい人のところから頼みましょう。家族が頼みにくいところは、頼まなくていいですよ。」
 「協力を依頼にする時は、菓子折りとか、絶対、準備しないでくださいね」
 「民生委員に相談してみてもいいですか？」

見守り協力者がつながった例

安心して外出したい～毎日の生活のなかで、
 盛り合い気配り・目配り・声かけを～

体調が悪そうなお時、道に迷っていきそうな時など
 日頃の生活範囲で、本人に、声をかけてください。
 なくなったらご家族が見守り支援者等に
 ます。見守り支援者が周囲を見ます。
 ない場合は、すぐ警察に連絡しましょう。
 (加東警察 TEL42-0110)

家族同意があれば、
 写真貼り付け
 または、別添

家族・親族・見守り支援者連絡表

| 家族・親族・店の名前・近隣 住民などの区分 | 氏名 | 電話 |
|--|----|----|
| 家族 長男 | | |
| 〃 長女 | | |
| クレーン店 末広商店 | | |
| 近隣 本多総合事務所 | | |
| 近隣 三村 | | |
| 山本呉服店 | | |
| *友人(浅井)の家 山本呉服店、スナックの付近 まで出陣に行、たかがりま。 今は不詳 | | |

私はこの個人情報について、次の機関が情報共有することに同意します。

1. 市高齢介護課および福祉部局
2. 市社会福祉協議会
3. 市民生児童委員 (地区担当)
4. 市防災課
5. 加東警察

平成29年12月25日

署名



取組により生まれたこと・成果

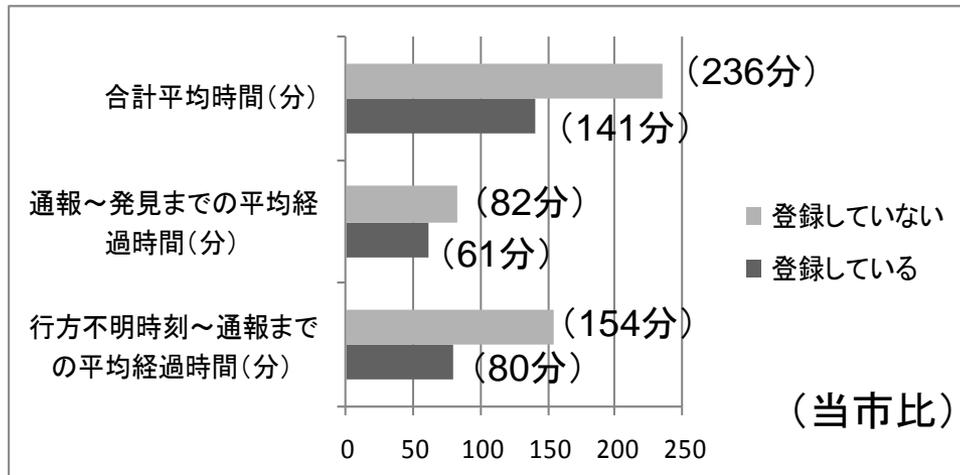
市への認知症かもしれない行方不明等の情報提供を元にした統計

高齢者の徘徊行方不明者の状況

(平成30年1月末まで)

| | |
|----------|------------|
| 平成25年度まで | 24件 |
| 平成26年度 | 10件 |
| 平成27年度 | 11件 |
| 平成28年度 | 19件 |
| 平成29年度 | 19件 |
| 計 | 83件 |

認知症（の疑い）で行方不明になった当ネットワークを登録している方と登録していない方の検索時間の比較（市把握分）



| | H27年度 | H28年度 |
|----------------|-------|------------|
| 認知症等と思われる行方不明者 | 11件 | 19件 |
| SOSネットワーク登録者 | 3件 | 7件 |
| 警察への通報数 | 7件 | 17件 |
| かとう安心ネット | 4件 | 2件 |
| 死亡発見 | 1件 | 0件 |

効果

- ・行方不明時の警察への通報件数が増えています。
- ・地域包括支援センターへの民生児童委員や地域住民からの通報が増え、相談先として認知されている。
- ・ネットワーク登録者は、早く発見されています。

認知症かもしれない人の警察との連携

平成28年度から加東警察から提案があり、相談した結果、警察が関わった事案で認知症が疑われる方で、情報提供の同意がもらえた方について情報共有を図るようになる。

認知症患者情報連携票

加東市地域包括支援センター長 殿

加東警察 加東警察第30号 平成29年1月18日

加東市加東警察署長 (印 着 封)

| | |
|-----------|---|
| 日 時 | 平成29年 1月 17日 午前 8時 20分 ころ |
| 種 別 | <input type="checkbox"/> 110番通報等現場認知 <input type="checkbox"/> 面談相談 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> その他(行方不明) |
| 相談者 | <input checked="" type="checkbox"/> 家族(男性) <input type="checkbox"/> 第三者 <input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 心機開 <input type="checkbox"/> その他() |
| 家族等の住所、氏名 | 住 所 加東市 |
| 氏 名 | 氏 名 (87歳) (男) 女 |
| 生年月日、年齢等 | 生年月日 昭和4年 (87歳) (男) 女 |
| 家族等の同意 | 有 無 |
| 事 案 の 概 要 | 上記日時ころ、同居の奥房から「父親が買い物から帰ってこない」との行方不明品を受理。 |
| 家族等の住所、氏名 | 住 所 加東市 |
| 氏 名 | 氏 名 (88歳) (男) 女 |
| 連絡先等 | 姓 名 漢字 氏名 漢字 電話番号 携帯電話 |
| センター | センター 番号 番 部 |
| センター | 日 年 月 日 午後・午後 時 分 |
| 届 入 票 | 日 年 月 日 午後・午後 時 分 |
| 警察官名 | 日 年 月 日 午後・午後 時 分 |
| 備考 | 備考 |

注 横線の下の欄は、警察署で一連番号を記載する。(FAX 0795-42-6424:加東警察) 地域包括支援センター FAX:0795-42-1733

加東警察



包括に連絡票をFAX (家族から同意)

通報があり、
気になった人



結果を報告



訪問して、
状態確認。



平成28年度
実績 **11** 件
平成29年度
実績 **20** 件

課題(今後、力を入れたい点)

ネットワークに多くの人を巻き込める人と巻き込めていない人がおり、差がある。

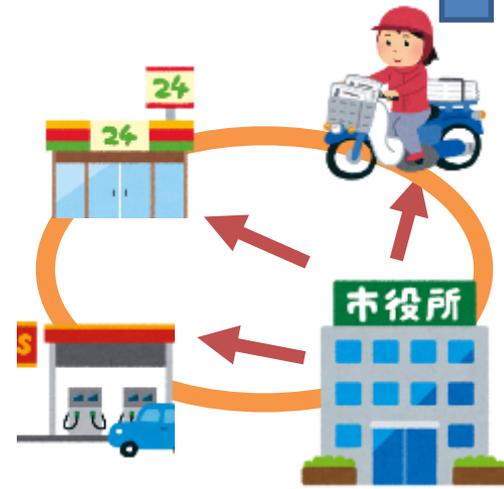
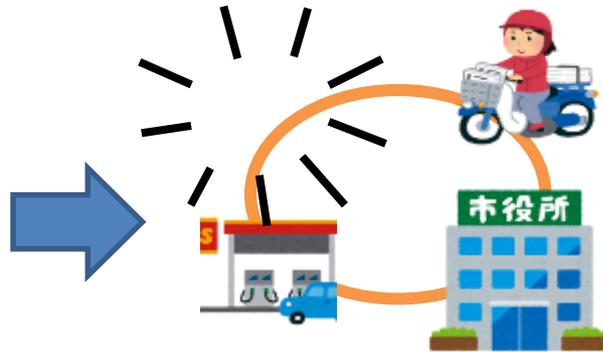
④地域の見守り力向上

① SOSネットワーク
利用者登録

② 本人から近隣へ
見守り協力依頼

③ 認知症サポーター養成講座 &
声かけウォーキング開催

ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク
協力機関(者)が、登録してからそのまま
になっている機関がある。



① SOSネットワーク協力機関は、関
心があって、登録しているはず。

② 店舗がなくなったり、
店長が変わると、申送り
できないところも・・・

③ 改めて、店舗等に案内。
ゆくゆくは・・・

・兵庫県の認知症サポ
ート店や見守り店舗に

もの忘れ予防カフェ(認知症カフェ)の開催支援 取組の目的・背景・経緯

背景・経緯

民生委員へ見守り協力、認知症サポーター養成講座の開催や認知症サポート店を依頼するなか積極的に協力したいという人が数名いらっしゃる。

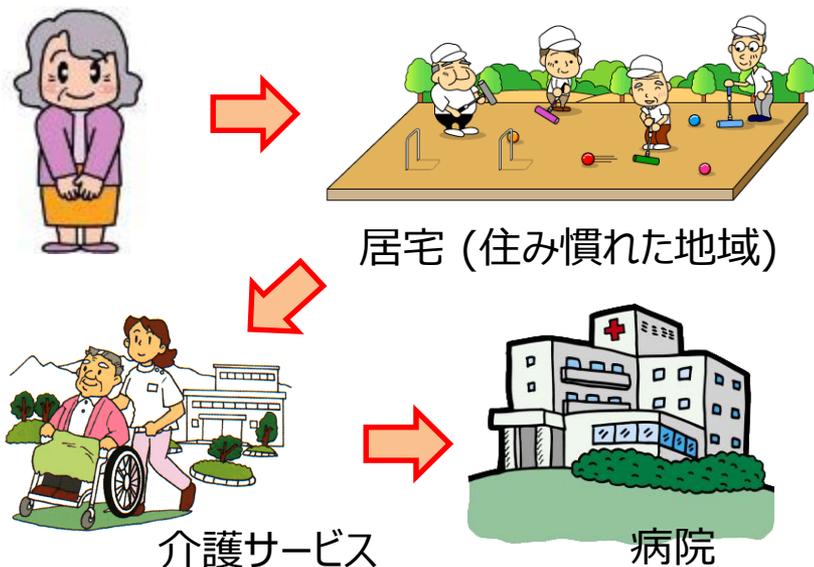
ひとり外出により行方不明になった人の話を聞くなかで、「社会参加したいけど、居場所がない」ことが分かり、介護サービスに加え、社会参加できる場がほしい。

介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、介護予防・生活支援サービスの検討が必要になった。

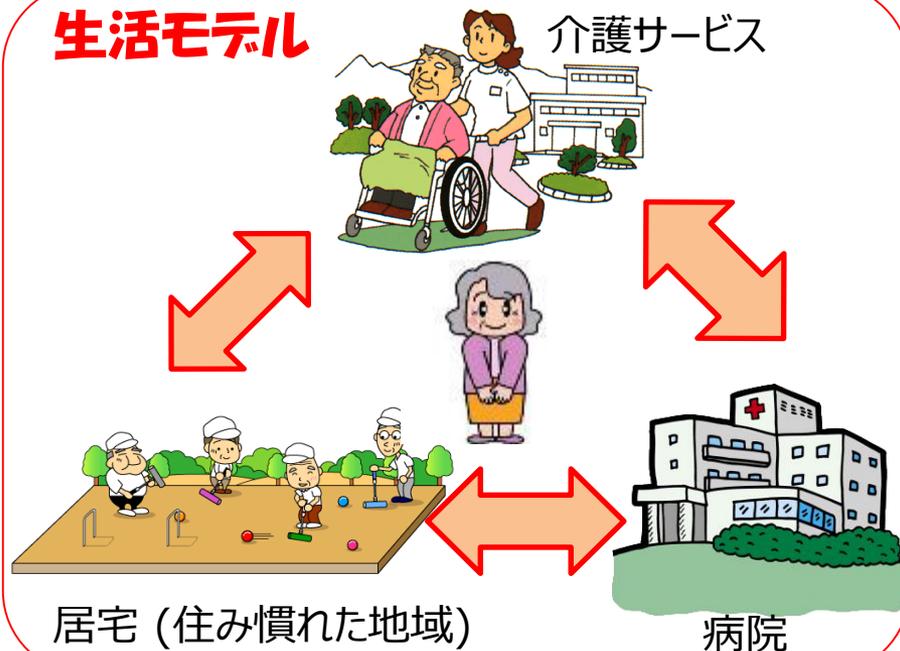
認知症の人とその家族が笑顔で過ごせるため地域に社会資源を充実させるために任地小カフェ開催支援に取り組むこととしました。

加東市の認知症カフェの目的

病院モデル



生活モデル



取組みの概要(方法)

- 民生委員、老人クラブ、社会福祉協議会などに物忘れ予防カフェの呼びかけ
- キャラバン・メイトや見守り協力店へ開催支援の案内
- まちかど体操教室（介護予防）担当者や生活支援コーディネーターと協力

パターン1. 地域で開催する認知症カフェ

サロン等の運営者（地域の人）「まちかど体操教室やサロンに参加している人からもう少し集う場所がほしい」「みんなと集いたいけど、体操はしたくない。」等の声がある。



サロン等の運営者（地域の人）と話し合い。「公民館を開けるくらいならいいけど、活動のネタがない・・・」



認知症カフェ（物忘れ予防カフェ）としてキャラバン・メイトを派遣。
地域の方は公民館を開け、サロンの準備
キャラバン・メイトは内容を考え、講師役。活動支援として、地域包括支援センター職員（推進員）が後方支援。



取組みの概要(方法)

パターン3. 個人宅で開催する認知症カフェ

ボランティアやキャラバン・メイトが自宅で開催したいと相談。時間も場所も知恵もあるけど、予算がない。人が集まらない。



認知症カフェ立ち上げ事業に推薦
及び参加者や支援者集めを協力



パターン4. 生活支援体制整備事業に抱き合わせて開催する認知症カフェ

生活支援コーディネーターと協議体で集い場を開催することとなる。せっかくなので、物忘れ予防カフェ（認知症カフェ）の機能も少し持っていていただくよう働きかけた。

取組の経過・工夫点

● 本人が楽しみ、支援者の負担軽減！

本人のやりたいことや役割づくりを支援。市役所や社協職員が参加したり、企画を考えたり、連絡会を開催することで継続活動を支援。

集まれ！かとうの絆



今後の展望

気ままカフェ ふらっと

若い世代の人が、若年性認知症や高次脳機能障害などの病気がきっかけで暮らしが変化したけれど、今後に希望が見い出せる居場所。

本人と家族と、そして良き仲間(パートナー)が集うカフェです。

若年性認知症とともに歩むひょうごの会

日本認知症本人ワーキンググループ

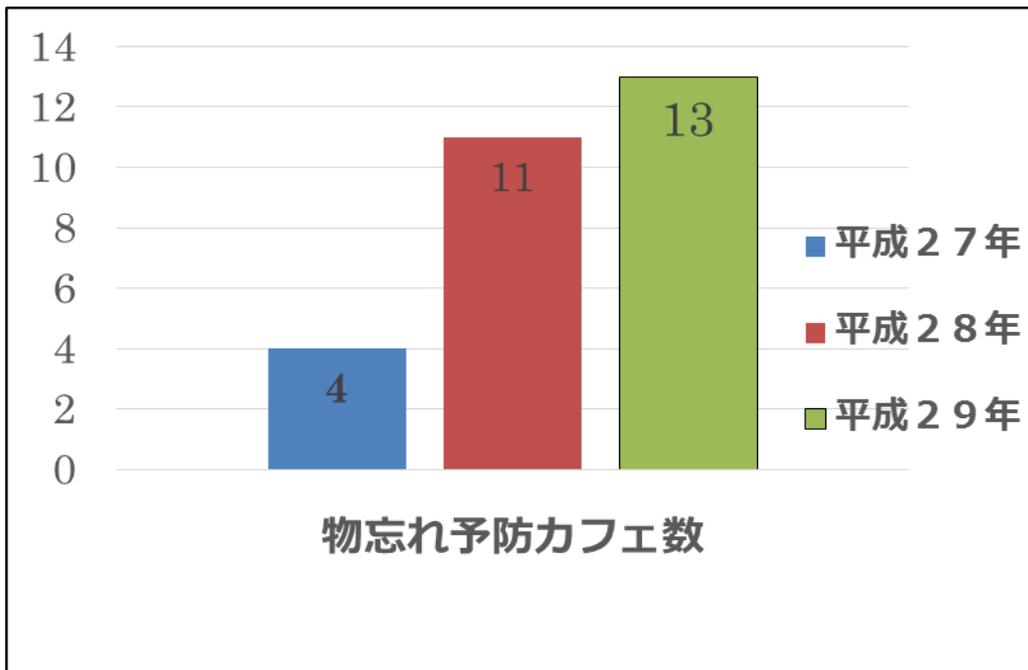
「年1回の連絡会を開催」

物忘れ予防カフェの関係者を集め、どのようなことを企画、運営しているのか情報共有。



取組の成果・効果

物忘れ予防カフェ数の推移



| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|------------------|
| ① | 物忘れ予防カフェ「窪田」 | 加東市高齢介護課 / 窪田保健館 | 加東市窪田115 |
| ② | 物忘れ予防カフェ「西古瀬」 | 加東市高齢介護課 / 西古瀬公民館 | 加東市西古瀬340-1 |
| ③ | 物忘れ予防カフェ「山田」 | 加東市高齢介護課 / 山田公民館 | 加東市山田1275-2 |
| ④ | 物忘れ予防カフェ「池ノ内」 | 加東市高齢介護課 / 池ノ内公民館 | 加東市池之内221-7 |
| ⑤ | 絆カフェマイハウスみのり「オレンジカフェ」 | 小規模多機能型居宅介護マイハウスみのり | 加東市河高2588-1 |
| ⑥ | 喫茶サロン「こもれび」 | 特費 フロイデ滝野 | 加東市下滝野字高倉1283-37 |
| ⑦ | 健康生活カフェ | 日の出安心地域サポートセンター | 加東市天神608 |
| ⑧ | 絆カフェしんじょカフェ | 自宅介護応援ホームしんじょ | 加東市新定559-1 |
| ⑨ | 絆カフェ愛の家 | 愛の家グループホームとうじょう | 加東市南山3丁目23-27 |
| ⑩ | みんなの広場「はな」 | 個人ボランティア / 個人宅 | 加東市山田 |
| ⑪ | 絆カフェすみれ | 特費 社せみれ園 | 加東市藤田字東山944-27 |
| ⑫ | 絆カフェたんぽぽカフェ | 個人ボランティア / 個人宅 | 加東市社81-8 |
| ⑬ | 絆カフェデイハウス憩い | 特定非営利法人デイハウス憩い | 加東市新町231 |

よかったこと

- ・地域に認知症になっても行ける場所が増えた。
- ・「あの人と一緒にデイサービスに行きたい」「ヒマだから」等の相談に紹介できる場所ができた。
- ・要介護度や制度等を気にせず、参加が継続できる場所ができた。
- ・MCI等の人を把握できた。
- ・若年性認知症の人の集いの場所ができた。

大変なこと

- ・認知症カフェごとに差ができています。
- ・集いの場所の地域差がある。
- ・増えたため、後方支援、管理が大変。
- ・継続参加してほしい人を継続参加させる。
- ・身近な場所として地域の人たちに理解していただく。

課題(今後、力を入りたい点)

地区に1ヶ所以上、魅力ある居場所がある。誰もが参加できるような仕組みがある。そのなかで、趣味や役割(生きがい)が継続できる。友人関係が継続できる。

外出支援(受診や買い物等)がある環境を継続できる。

移動の整備

- ・総合事業による移動支援を行う事で、地域のつどい場までの交通手段がない人への移動支援。
- ・参加への声かけ等のサポーターの協力

お楽しみがいっぱい

介護予防

趣味や役割(生きがい)の場の創出



居場所の整備

地域に1つ以上の定期的な集まる機会の確保

- ・まちかど体操教室
 - ・いきいきサロン
 - ・移動販売 など
- 居場所のバラエティー化
- ・支援者の活動支援とプログラムへの支援(つどい場の魅力向上)

タクシー券の助成など

ちよつとずつ、力を入れている点

- ・総合事業による移動支援を行う事で、地域のつどい場までの交通手段がない人への移動支援。



訪問型サービスDの活用。
利用できる事業にあいのりさせてもらう。

- ・居場所のバラエティー化
- ・支援者の活動支援とプログラムへの支援

生活支援体制整備
事業を活用。



92歳の閉じこもりの人が参加される。
あきらめず、誘ってみることも大切。



認知症施策を展開する上で大事だと考える ポイント

●ほかの事業で利用できるものに“あいのり”させてもらう。

一つ一つの事業を展開していくことはとても大変です。

ほかの事業が動いていくなかで、活用できるものを活用させてもらっています。

目的を伝え、協力いただけるようにしています。

また、協力できる事業には、協力しています。

●何がきっかけになるかはわからない。

うまいこといかないことが多いですが、何がきっかけで事業が動いたり、好転するか分かりません。

関係が切れないように意識して関わっています。

自分がだめなときは、別の誰かに協力してもらう。など

意識しているのは、

「まとめること」「まきこむこと」

思ったようにならなくてもかかわる人が1人でも増えたら、それはよかったことと思っています。



認知症施策を展開する上で大事だと考える ポイント

● 目標（テーマ）を明確にして、共有できるか。

加東市の目標は、「認知症になっても、行きたいところへ行き、会いたい人に会えるよう応援します。」なので、その目標が達成できるようにするには、どうしたらいいのかを考えて、事業を展開したり、事業説明を行っています。

● 協力してほしい人（機関）を巻き込む。

行方不明者を防ぐ、居場所をつくるためには、いろんな人の協力が不可欠です。協力してほしい人にしつこく連絡するし、頼っています。最初は無関心だった人も頼られるうちに、関心を持ってくれるようになりました。

**私も担当したときは、わからないことだらけでした。
難しいことはできません。**

**ある1人の方をどうしたら、外出を続けられるかを考えることで、
事業を進められるようになりました。できることから始めてみましょう。**

